

図2 幸太の適作型

分注意します。また、11~12月中旬播きのトンネル栽培には向きません。

③高冷地などでは無理な早播きを避け、トンネル、マルチ、べたがけなどを有効利用します。また、5月下旬以降播種の作型は高温期に向

かっての栽培になるために向きません。

- ④3月以降の播種は窒素過多、過湿による裂根に注意し、品質を高めるために若どり（L主体）を徹底します。
- ⑤トンネル栽培では草勢が安定しますので、通常施肥（N-P-K=10-15-10 kg/10 a）

で問題ありませんが、窒素は減肥した方が品質がより高まります。

北海道における ダイコン新品種「涼太」の特性と適作型

雪印種苗株 中央研究農場

安 達 英 人

ダイコンは20℃前後のやや冷涼な気候を好み、大面積の作付けが可能なため、北海道では重要な野菜となっています。特に7~9月に府県へ移出されるダイコンは北海道の最重点野菜となっており、評価も高く、年々作付けも増加しています。

ダイコン産地では、生育期間が短いために同一場所で2~3連作されることがあります、そのため土壌病害虫が増加し、連作障害が問題となっています。また、産地間競争も激しく、作付け面積の増減の多い野菜となっています。産地間競争に打ち勝つためには、良品の継続出荷が重要で、外観だけでなく、内部品質も重視した、作型に合わせた品種選定と栽培技術が必要となってきます。

弊社では、安定した収量と品質を備えた品種の育成を行なってきましたが、このたび育成した涼太（試作番号 SB 7005）は3年間の試作結果から、

北海道の夏秋播き栽培に適した品種と評価されています。

ここでは涼太の特性を紹介するとともに、北海道での6~8月播き栽培の留意点と特性を発揮させる栽培法について紹介します。

1 「涼太」の特性紹介（表1参照）

○根の揃いの良い青首総太り

根形は総太り型で、根長は35~40 cm程度によく揃います。現在、産地ではダンボール出荷が中心で根長の揃い性は重要ですが、涼太は45 cm以上の長根がでることはほとんどありません。

青首は根の1/3~1/2程度で、首色の揃いも良く、市場性抜群です。

肌は色、ツヤに優れ、横縞の発生も少ない品種です。

○優れた早太り性

宮重系の中では根長がやや短かめで、太りが早

いため、収穫は従来の品種より3~5日早くなります。また、抽苔は15~20cm程度ですが、曲がり根は少ない品種です。草勢は旺盛で立派ですので、葉勝ちにならないよう施肥量に注意します。

○晚抽性

涼太は宮重系の中では抽苔が安定していますので、6月中旬播種(マルチ:道央)も可能です。ただし、無理な早播きは天候によっては抽苔や根基部の盛り上がりの危険があるので避けた方がよいです。

○安定した品質

肉質は緻密で、甘味がありス入りも遅い方です。

赤芯症、空洞症などの生理障害は高温期によく問題となります。涼太は発生が少ないので後述する栽培技術に合わせると、かなり発生を抑えることができます。

2 各作型での栽培のポイント

(図1、表2参照)

①初夏播き栽培

~無理な早播きは避け、マルチ栽培で生育促進~

6月の低温と生育後期の高温が問題になりますが、比較的作りやすい作型です。

i) マルチ

早播きをすると、生育初期の低温によって抽苔の危険性が高くなります。播種後2週間程度被覆資材を利用すると抽苔が回避できます。

銀ネズマルチは地温上昇効果がありますが、生育後期に高温となる地域では黒マルチを利用するか生育中期にマルチを除去するのがよいようです。

ii) 施肥

施肥量は春作よりも少なめとします。施肥は播種日の5日前までに行い、よく混和してマルチをかけ地温を高めておきます。

表1-(1) 品種比較試験

(長沼町 中央研究農場)

品種	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	根形 (9~1)	肌 (9~1)	青首 (9~1)	ス入り (9~1)	抽苔率 (%)
----	-----------	------------	------------	-------------	------------	-------------	--------------	------------

<平成2年6月8日播種、マルチ栽培、播種後52日目調査>

涼太	1,320	37.2	7.2	4.5	6.0	7.0	7.0	0
他社T	1,050	36.9	6.1	3.0	6.5	6.5	5.0	15
他社S	1,160	38.9	6.5	5.0	7.0	6.5	5.5	0

<平成元年6月9日播種、マルチ栽培、播種後54日目調査>

涼太	890	33.1	6.9	4.0	6.5	5.5	5.5	13
他社T	750	35.7	6.4	3.0	6.0	5.5	5.5	37
他社M	810	33.7	6.1	3.5	6.0	4.5	6.0	20

<ポイント>平成2年は高温のため抽苔はなかったが、道央では6月20日以降の播種が安全。根形は総太り型で太りが早い。低温時には短根になりやすいので、必ずマルチ栽培とする。

表1-(2) 品種比較試験

(長沼町 中央研究農場)

品種	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	規格内 割合(%)	根形 (9~1)	肌 (9~1)	青首 (9~1)	ス入り (9~1)
----	-----------	------------	------------	--------------	-------------	------------	-------------	--------------

<平成2年7月18日播種、露地栽培、播種後58日目調査>

涼太	1,330	35.9	7.7	95	5.5	6.5	5.0	7.0
他社T	1,200	36.4	7.0	55	3.5	6.0	3.5	5.0
他社S	1,390	34.8	7.4	85	6.0	6.0	4.0	4.5

<平成元年7月13日播種、露地栽培、播種後68日目調査>

涼太	1,300	30.6	7.8	75	6.0	5.5	4.5	7.0
他社T	1,180	34.7	7.2	60	4.0	6.0	4.5	7.0
他社M	1,390	36.6	7.5	70	5.0	5.0	4.0	6.0

<ポイント>根の太りが早く形も総太り型で青首色も濃い。ス入りも1,300gまでは全く問題ない。露地栽培でも高畠としたほうが、まとまりのあるダイコンができる。

表1-(3) 品種比較試験

(長沼町 中央研究農場)

品種	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	規格内 割合(%)	根形 (9~1)	肌 (9~1)	青首 (9~1)	ス入り (9~1)
----	-----------	------------	------------	--------------	-------------	------------	-------------	--------------

<平成2年8月16日播種、播種後65日目調査>

涼太	1,360	37.4	7.5	95	6.5	7.0	6.0	6.0
他社T	1,170	35.3	6.4	90	7.5	7.0	5.5	6.0
他社M	1,260	36.9	7.0	95	6.0	6.5	5.0	7.5

<昭和63年8月10日播種、播種後62日目調査>

涼太	1,160	36.4	7.0	95	5.0	6.0	5.0	—
他社T	1,040	38.7	6.1	90	4.5	6.5	4.5	—
他社M	1,150	38.9	6.4	95	5.0	6.0	4.5	—

<ポイント>早太りなので、根径7.0~7.5cmで収穫する(1,200~1,300g)。

評点基準 根形 9:円筒形~1:円すい形
肌 9:極滑~1:極粗
青首 9:濃緑色~1:白色
ス入り 9:なし~1:甚しい

		6月	7月	8月	9月	10月	生育日数
初夏播き (銀ネズマルチ) (黒マルチ)	道 南	●～●					53～60日
	道 央	●～●	●				55～60日
	道 東北	●～●	●				57～60日
夏 播 き (シルバーマルチ) (露 地)	道 南	●	～～～	●			55～60日
	道 央	●	～～～	●			55～63日
	道 東北	●	～～～	●			57～65日
晚夏播き (露 シルバーマルチ)	道 南			●～●			57～65日
	道 央			●～●			60～70日
	道 東北			●～●			60～75日

図1 涼太の適作型
 ●～●播種期 ——生育期 □ 収穫期

表2 標準施肥量 (kg/10a)

	窒 素	リン酸	カリ	F T E	備 考
初夏播き	6～8				火山性土壤は増肥
夏 播 き	5～7	12～15	8～10	5～6	シルバーマルチでは減肥
晚夏播き	8～10				

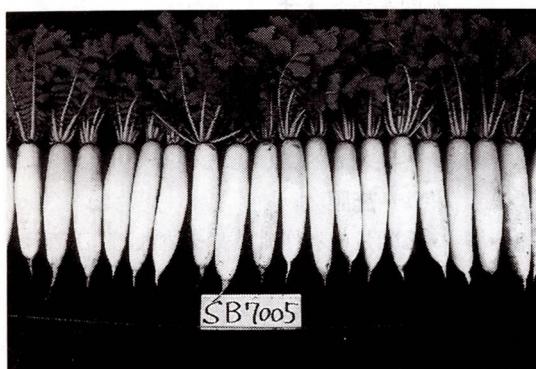
iii) 収穫

収穫期が8～9月の高温期となるので、収穫作業は早朝か夕方の涼しい時に行います。収穫適期は根径7.0～7.5cm、一本重1,000～1,200gを目途とし、一本重1,400gには収穫が終わるようにします。一本重1,500gを越えるとス入りの危険があり、また、根形も総太り型からやや胴太り型となるので、収穫適期を逃さないよう注意します。

②夏播き栽培

～モザイク病防除と生理障害を抑える～

高温期での栽培で、生育不良、ウイルス、生理障害が発生しやすく栽培が難しい作型です。入力は高温期でも問題になりますが、収穫適期(1,400g)までに収穫すれば問題となることはありません。



夏秋ダイコンの評価の高い「涼太」

i) マルチ

モザイク病回避のためシルバー、黒マルチを用いることが多いですが、かけ放しは赤芯症の発生を助長するので、4～5葉期に除去した方がよいようです。露地栽培の早播き栽培では、低地温時には根長が短かめになりやすいので、高畦栽培を行なってアブラムシの防除を徹底します。

ii) 施肥

この作型は葉が繁りやすいため施肥量は肥沃地ほど少なめとします。特に多窒素条件下では葉が過繁茂となり、軟腐病、空洞症、曲がり根が多くなり、青首色も淡くなります。肥料は後半に肥効(窒素)が残らないようにNS肥料を用いるとよいようです。

赤芯症はホウ素欠乏が主原因ですので、FTEを6kg/10a施用します。

iii) 収穫

初夏播き栽培と同様、高温期での収穫となり、一日当たり50～60gの根重の増加となるので、特に収穫は計画的に行なうようにします。

③晚夏播き栽培

低温期に向かう作型で、春野菜の後作として作付けされる場合が多く、栽培もやさしい作型です。

i) 施肥

施肥量は前作の残効肥料分を考えて決めますが、前作が野菜の場合、窒素で3～5kg/10aで十分です。

ii) 収穫

秋の漬物用はあまり太くないものが良品とされていますので、根径7.0～7.5cm程度で収穫します。

涼太は来年度から本格的な作付けが実施されますので、品種の特性をよく理解していただき、適期に播種を行なって品質の良いものを獲るようになっていただきたいと思います。

弊社では今後も良質ダイコン生産のための品種育成、栽培試験を積極的に進めていますので、ご期待下さい。